

(様式2)

平成 26 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200075		
法人名	長岡三古老人福祉会		
事業所名	グループホームまきやま		
所在地	新潟県長岡市榎山町1155-1		
自己評価作成日	平成26年12月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/15/">http://www.kaigokensaku.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成27年1月14日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・建物のつくりは雪国特有のせいがい造りとなっている。広い日本庭園があり、その風景からも季節が感じられる。リビングは開放感のある高い天井を採用し床には桐材を使い全体的に暖かい雰囲気を作っている。

・企業内に認可保育所のこどもげやき苑があり、園児達と気軽に交流でき園児の成長を共に喜びあえる環境がある。また、月1回苑児との食事会があり、一緒に食事を作って食べている。普段、見れない表情や、あまり活動的でないご利用者が子供達とふれあい、お世話をしようとして自発的に手を伸ばしたり、話し掛けたりといった様子も見られる。

・庭や畑にでて季節の草花や作物に触れて楽しむ事ができる。

・一人ひとりの力が発揮できること → 家事や趣味を楽しむ場面を大事にしており、ご利用者同士や近所の方々との交流がしやすい環境づくりに務めている。

・近隣に特養やショートステイ、デイサービス、パワーリハビリステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、保育園、などの施設があり、行事を一緒に行ったり、医療の連携がとれている。リハビリ施設に歩いて行ける。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームまきやま」は、長岡地域で早くから福祉事業を展開してきた社会福祉法人が運営する「特別養護老人ホーム榎山げやき苑」を母体施設とし、そこに隣接している。建物の外観は和風の木造平屋建てで、内部も木の温もりが感じられ、リビングの天井は高く開放感のある造りとなっている。

利用者は日課として、ゴミ出しや鶏の餌やり、卵の収穫等を職員と共に行っており、ゆったりとしたリズムの中で一人ひとりの生活が営まれている。

開設当初から家族との関係づくりに積極的に取り組んできており、利用者を共に支えるという家族との関係性が醸成されている。現在では概ね月2～3回程度の面会や月1回程度の受診支援などに家族の協力が得られているほか、お盆や正月の自宅への帰省、家族との外食・外出などが自然な形で行われている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は玄関に貼ってあり、誰でも見て確認できるように、職員が常に意識して実践できるように掲示してある。	「人との交流、家族、地域とのつながり、心身共に健やかな毎日、認知症ケアの質の確保」を事業所の理念として掲げている。毎年理念の具体的目標を定め、半年毎に評価・見直しを行って理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方がハーモニカの演奏をして下さりに来たり、民話の会のボランティア、語りべや歌を披露して下さることもある。母体の施設とのお祭りで露店を出し近所の方がたくさん来て下さる中で、ご利用者が店員として活躍して頂いている。防災で協力して頂いたり、食材の買い物は近くのスーパーにご利用者と一緒に行っている。	隣接する母体施設の行事「けやき観音祭」に事業所として模擬店を出したり、地域の有志によるボランティア活動の受け入れを積極的に行っている。隣接する保育園の園児との定期的な交流なども行い、事業所として地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア、小、中学校のボランティアの方、実習生の受け入れを行っており、グループホームのご利用者に関わり、又同敷地内にある保育園の苑児との行事を行っており、生活について見たり、お話ししたりと理解して頂く機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では地域の方、ご家族から出席頂いてグループホームでの生活の様子の報告や話し合いを行っている。そこでの話し合いの意見などを参考にサービスの向上に努めている。	概ね2ヶ月ごとに、隣接する同一法人のグループホームと合同で開催している。会議では、事業所から行事や生活状況等の報告が行われており、家族が3～4人と多く参加していることから、家族から本音も聞かれるなど活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長岡市の訪問相談員により2か月に一度訪問して頂き、ご利用者のお話を聞いたり、相談にのって頂いている。年1回ではあるが、市で開催しているグループホームの交流会に参加し、意見交換を行っている。	運営推進会議のメンバーである行政職員や、行政主催の管理者研修会への参加などを通じて行政との良質な接点を保つよう努めている。市の介護相談員の定期訪問を通じても行政との連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束について学習したり、法人全体の取り組みとして身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。各居室や玄関から日中は外に出られるようになっているが、外に出られる時は職員も一緒に付き添わせて頂いている。	法人としてのマニュアル等が整備されており、年間研修計画の中で身体拘束をしないケアについての研修が全職員を対象として毎年開催されている。管理者は、日頃から身体拘束について意識して職員指導を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回の施設内研修にて勉強会を行い、ケアマネジメント委員会にて虐待防止のマニュアルの作成を行っており、事務所に置いていつでも見れるようになっている。	法人としてのマニュアル等が整備されており、年間研修計画の中で虐待防止に関する研修が全職員を対象として実施されている。管理者は職員のストレスにも注意を払い、職員が孤立しないよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修したものを伝えているが、今現在は必要とされる方がいない。今後も勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前後の段階で家族に契約内容についてなど理解・納得して頂く為に十分な説明を行っている。面会時などにその都度、ご家族からの質問など受け返答している。ご利用者の状況もお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時や運営推進会議への参加の中で、ご家族からの意見要望を伺い運営に反映させている。	法人全体としての利用満足度アンケート調査が毎年行われている。事業所でも運営推進会議や家族総会時、また、日頃の面会時に家族から意見や要望を引き出すように特に心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングやグループホーム会議の中で利用者の関わりを始め、業務や環境面などについての意見を聞き検討している。職員の意見は具体的に運営に取り入れている。	年3回開催される職員会議及び隣接する同一法人のグループホームとの合同会議のほか、毎日のミーティングを通じても職員の意見・要望を管理者に提案できる体制ができています。	運営に関する様々な課題を職員が認識し、さらに管理者が示す方向性を共有する上でも職員会議は重要である。より密な頻度での定期的な会議の開催により、一層の職員の意識の共有が図られることを望みたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員のストレスを軽減する為の工夫や環境作りをしている。心配事や悩み等は相談できる関係作りができており、いつでも相談できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をはじめ、法人内で定期的に研修会や法人内のグループホーム部会で学習会、交換研修を実施している。職員の経験年数に応じた研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内においてグループホーム部会を月に1回開催し、各事業所の現状報告や意見交換、勉強会を通じ質の向上へと繋げている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活の状態を把握するように自宅訪問や利用しているサービス事業者から情報を得ている。センター方式のシートを使用し、それに家族からも記入してもらうことで今までの生活が継続できるように、そして今どういう思いであるかお話を聞き、安心して生活ができるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み、事前訪問時にご家族の思いなどをお聞きし、職員と一緒にご利用者の生活を支援していくこととお話し、理解して頂いている。そしてお互いに話をしやすい関係をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援があれば、ケアマネに報告し相談したり、法人内の各種サービスに繋げるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者のできることと、できないことを見極め、そしてご利用者から教えて頂くこともあり、職員がお手伝いすることもありお互いに支え合って一緒に生活をしていることを意識している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際など最近の様子を伝え、現在の状態が家族にもわかるように心掛け、なにかあればすぐに対応して頂けるようにお話している。定期受診の付添い、デイキャンプなど大きな行事、日頃行っているいつもの活動についても参加のお願いし協力して頂いている。	理美容店や受診の同行については、基本的に家族の役割として明確になっており、事業所周围の草刈りや冬囲い作業等も家族が自発的に行っている。家族の面会も非常に多く、利用者の日頃の様子について自然に話ができる雰囲気醸成されている。遠方の家族には写真やDVDを送って日頃の様子を伝えるなど、関係が途切れないように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族より、外出、外泊の協力をして頂き、本人の馴染みの環境(人、場所)に触れる機会をつくっている。知人であったり、家族、親戚が自由に入出入りできる環境づくりをして、来所して頂く事でご利用者との馴染みの関係を大事にしている。	家族の支援により、馴染みの理美容店の利用や正月・お盆の自宅への帰省も行われている。友人・知人等の面会も多く、事業所として馴染みの人との関係継続に配慮した取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が穏やかに気持ちよく生活していけるように、必要な時は職員が間に入り大きなトラブルにならないように配慮したり、活動や作業など一緒に関わって頂き楽しい雰囲気づくり、話しやすい環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の利用者の家族がボランティアにいられたり、他の施設に入居後の利用者のところへ遊びに行ったりしている。遠慮なく来ていただける雰囲気作りを心掛け、必要に応じて相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、職員にお話しされることをお聞きしたり、言葉や表情などからどんな思いを持っているのか読み取る努力をしている。カンファレンスではご本人、家族も参加して頂き、意向を確認している。	入居時に家族からセンター方式のアセスメントシートに記入してもらい、職員間で情報を共有している。入居後も、日々の関わりの中で気付いたことや利用者の言葉として聞いたことを経過記録等に記載して日頃のケアに役立てている。	個人ファイルの中にセンター方式アセスメントシートが整備されているが、新たな情報が加筆整理されていない。異動等で職員が変わっても利用者の情報をまとめて見ることができるよう、情報の整理方法について検討が望まれる。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問の時に家族に話を伺ったり、ご本人が生活されてきた部屋などを見せて頂き、写真を撮るようにしている。担当ケアマネより情報を頂いたり、日々の会話の中であったり、面会に来られた方に話をお聞きしたりしている。	入居時に家族からセンター方式のアセスメントシートに記入してもらい、これまでの暮らしの情報把握している。入居後に得た情報については、経過記録等に記載して職員間で情報の共有を図っている。	個人ファイルの中にセンター方式アセスメントシートが整備されているが、新たな情報が加筆整理されていない。異動等で職員が変わっても利用者の情報をまとめて見ることができるよう、情報の整理方法について検討が望まれる。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日2回(10時・16時半)のミーティング時、ご利用者の様子を確認したり、記録に残すことで情報の共有を行い、状態の把握に努めている。また、毎日ケアプランを確認、評価している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで本人、家族に意向を確認したり、職員同士気付いたことや感じたことを話したり、ご本人やご家族に意見をお伺いし相談してケアプランを作成している。	センター方式のアセスメントシートを活用して、計画作成担当者と担当職員を中心に課題分析を行っている。カンファレンスには利用者と家族も参加しており、その意向や思いを確認しながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録、業務日誌に本人の言葉や、エピソード、又は変化が見られたら記録し、グループホーム全職員が確認し情報の共有に努めている。グループホーム会議やミーティングの際に意見を聞いて、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が定期受診に付き添えない場合は、職員で対応することもある。併設されている施設を利用したり、他施設や学校の行事に参加させてもらったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会で意見を聞いたり、市から介護相談員の方に来て頂きアドバイスを頂いている。地域のボランティアの方が定期的に来ており、楽しみの一つとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。入居される前からの引き続きであることがほとんど。定期受診は家族に付き添って頂いており、職員が記入した主治医連絡票(日々の心身状態を記入)、バイタル一覧表を作成し主治医に渡している。必要に応じて電話で事前に状態の報告を行う場合がある。	これまでのかかりつけ医に家族が同行して受診している。受診時には、本人の状態やバイタル値等を記入した「主治医連絡票」を持参してもらい、適切な医療に結びつけられるよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特別養護老人ホームの看護師とは気軽に相談できる関係ができており、看護師と協力医療機関との連携もとれる体制が確保されている。週に1回身体の状態確認もして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な状況に応じ医療機関と相談、話し合いを行い、一緒に考え、対応できる体制づくりに努めている。入院時必要な情報を伝え、また入院時の様子や退院の可能性、予後に関して連絡を取り情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には、入所後に重度化した場合や終末期のあり方について説明させて頂いている。状態変化に合わせて相談させて頂いている。法人内に多様なサービスがあり、ご本人にとってどこで過ごされるのが適切なのかその都度検討することとしている。	重度化・看取りの指針は作成されているが、事業所では看取りの事例は発生していない。重度化した場合は、家族の意向を聞きながら隣接する特別養護老人ホームや同一法人の多様なサービスについて説明し、希望にそって移行を支援している。	家族が事業所での生活継続を希望した場合には、事業所側としてどのように対応するのかを含めて、全職員で重度化や看取りの対応についての意識の共有を図ることが望まれる。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で対応マニュアルを学んでいる。マニュアルを事務所に掲示していつでも確認できるようにしてある。	事故対応マニュアルが整備されており、初期対応等の研修会も毎年開催されている。利用者の状態に著しい変化があった時は、隣接する母体事業所の看護師よりアドバイスが得られる体制ができています。夜間の有事の際は、隣接するグループホームから職員の応援が得られるようになっている。	夜勤は一人体制であるため、夜間想定事故対応訓練や、隣接するグループホームとの連携訓練など、より実践的な訓練の実施を望みたい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修で対応を学んだり、防災訓練を定期的に行い、避難方法を身につけている。近隣施設、地域住民の方の協力を得ながら、安全な避難誘導ができるよう取り組んでいる。災害時に備えて3日分の備蓄を用意している。	年2回春と秋に避難訓練を実施している。秋の避難訓練は消防署員の立会いのもとで行い、指導・講評をもらっている。近隣住民1名に防災協力員をお願いして訓練時には協力を得ている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者と職員が馴染みの関係から馴れ合いの関係にならないように、言葉使いやかかわりについて丁寧に行うように注意している。プライバシーについての施設内研修も行っている。	サービス提供計画表について半年ごとに評価及び振り返りを行い、その中で、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを損ねていないかの確認に取り組んでいる。言葉かけについても意識して日々のケアに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分から意見が上手く言えない場合でも、答えやすい質問の方法で何うようにしている。ご本人の意向を定期的に確認させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人に伺いながら、本人のペース、意向に添った支援を務めている。皆さんで楽しむ行事もあれば、その方が好きである活動を行う事もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族の希望をお聞きして対応している。理美容に関しては、家族が髪を切られたり、馴染みの理容室にてカットして頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りをご利用者と一緒に行う事で食事への興味を抱いて頂く様にしている。温かいものは温かいうちに召し上がって頂くようにしている。週に1回、リクエスト献立としてご利用者に伺い食事を作っている。片付けはご利用者と会話を楽しみながら行っている。	週3回の食材買出しに利用者も一緒に出かけるほか、食事の盛り付けや茶碗拭き等利用者一人ひとりが出来ることを役割として食事作りに参加している。チマキ作りや笹団子作り等の季節行事も企画して、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェックを行い、必要量を摂っておられるかを把握している。状態に応じて、ご家族や主治医にも相談を対応している。献立は管理栄養士からアドバイスをもらっている。ご本人に合った食事形態での提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいを働きかけており、口腔状態やご本人の持っている能力に合わせて援助を行っている。毎日、夕食後に義歯をお預かりし、洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行けない方に対しては尿意、便意を訴えられた時や、定期的にトイレ誘導を行っている。他、トイレの場所がわかりやすい工夫をしている。	排泄チェック表を整備して利用者一人ひとりの排泄リズムの把握に取り組んでいる。把握した排泄パターンに応じて、さりげなく声かけをしてトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中、なるべく体を動かしていただけるよう働きかけたり、食材に野菜を多く取り入れるようにしている。乳製品も毎日、様々な形で摂取されている。水分摂取の働きかけも行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴していただけるよう、タイミングだったり、体調や気分に合わせて無理なく入浴されるよう配慮している。ゆっくりと入って頂けるような雰囲気づくりも心掛けている。	基本週2回の入浴を目標として声かけを行っているが、希望に応じて毎日の入浴や同性介助にも対応している。ヒノキ作りの浴槽でゆったりと入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜はゆっくりと休めるように生活のリズムを整えるように努めている。室温、照明にも気を使っている。穏やかな気持ちで休まれるように付き添わせて頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を記載された説明用紙をファイルに綴じて随時確認できるようにしている。配薬時は配薬チェック表を確認しながら、間違いがないように努めている。主治医への状態報告を行い、調節をお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ひとりの力や特技・趣味を活かした支援に努めている。食事作りや茶碗拭き、洗濯物たたみ等ご自分の役割として行っておられる。隣接している施設に動物がいたり、美味しい飲み物がある場所があり時々出かけている。2日に1回は近くのスーパーへ買い物行ったり、お酒を飲む機会があったり楽しんで頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、散歩、ドライブ、月別外出等、お身体に無理のない範囲で出かける機会をつくっている。また個別に家族と外出、外泊される方もおられる。	ゴミ出しや、鶏の餌やりと卵の収穫等の日課があり、利用者の心身の状況に応じて事業所の周辺に出かけられるよう支援している。また、季節行事として桜のときのお花見や越後丘陵公園のコスモス見物などにも出かけ、戸外で楽しむ機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材等の買い物に行かれた時にご利用者の方から品物を選んで頂いたり、お支払いをして頂いて生活観を味わって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が不安な思いがあったり、希望があれば自由に電話をかけて頂いている。ご家族にも協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭で花や野菜を育てたりして、食堂から成長を見れるように配慮している。また、季節を感じられるような、室内の装飾も心掛けている。リビングの明かりは日本風の温かみのある電球色を使っている。	共有空間は、全体に木目を基調とした造りで木の温かみを感じられ、特にリビングは天井が高く開放感がある。畳のスペースにはコタツも設置されている。トイレには絞り染めの暖簾が掛けられており、華美な装飾にならない程度の落ち着いた空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの何か所かにソファを置き、どこでもご利用者同士と一緒に座って談笑できるように設置してある。廊下の奥にも椅子を置き外を眺められたり、自分の気分で場所を変えて過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人、ご家族と相談して、ご本人が慣れ親しんだ物を持ち込んで頂き、安心して居心地良く過ごせるような工夫をしている。	居室は8畳相当の洋室で、利用者それぞれが使い慣れたベッドやタンス、鏡等を持ち込んでいる。さらに、家族の写真や自分で描いた絵画も飾るなどして、その利用者にとって居心地の良い使い方をしている。	居室は休む場所としてリビングを中心に生活している様子がうかがえた。居室でテレビを見たり、お茶のみや会話を楽しみたい利用者への可能性を踏まえて、今後は居室でも生活を楽しむことのできるよう、利用者のその人らしい暮らし方に応じた居室づくりへのより一層取り組みに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレと表示してあれば探しまわることなく一人でトイレに行けたり、わかりやすくすることでできることなどの配慮も行っている。できることは安全にやって頂けるように声掛けを行っている。		